

# 南瓜べと病に関する研究 (第2報)

## 発病度と敷藁との関係について

後藤重喜・崎村弘

(宮崎縣農業試験場)

敷藁によつて発病度は一般に低下し、発病度と敷藁との間には有意な関係が認められるが、初発期の差異は実験調査の範囲では見られず、初期感染の防止効果は認め難かつた。発病度は敷藁の種類、方法、及び時期などによつて著しく異なり、種類では麦稈、稲藁及び干草がよく、3者の間には有意差は認め難い。方法としては株基まで十分に敷藁の行われたものが良く、

厚さは地面が概ねかくれる程度で、それ以上に厚い場合でも大差ない。時期は除紙の直後に行つた場合が良かったが、発生時期との関係が大きいようである。敷藁による発病度の低下には、種々の原因が考えられるが、雨滴の飛沫を防ぎ直接に感染を防止するだけでなく、乾燥を防ぎ地温の低下による生理的な原因も大きいよう考察される。